

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

沖 縄 県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	浦添市立 浦西中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	0	12	25
生徒数	140	158	154	0	452	

研究の概要

1. 研究主題

学力向上につながる習熟度別少人数指導のあり方  
 — 生きる力をはぐくむことを目指し、生徒一人一人に「基礎学力」を身につけさせる —

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 3年生・英語  
 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

成 15 年 平 度	<p>テーマ                  学力向上につながる習熟度別少人数指導のあり方                  (生きる力をはぐくむことを目指し、生徒一人一人に「基礎学力」を身につけさせる)</p> <p>研究の見通し                  初年度の今年は、職員の体制も整っていないまま6月下旬頃のスタートとなってしまう。そのスタートのまずさが後々までひびいてしまい、満足のいく出来にはなっていないのが現状である。                  よって、次年度の方向性を再度担当者話し合い、しっかりと作っていききたい。</p> <p>研究の内容・方法                  英語科を中心とし、学力向上のための教材開発、主事を招いての勉強会、そして、保護者への説明等に力を入れる。</p>
------------------------	---

平 成 16 年 度	<p>テーマ                  学力向上につながる習熟度別少人数指導のあり方                  (生きる力をはぐくむことを目指し、生徒一人一人に「基礎学力」を身につけさせる)</p> <p>研究の見通し                  英語科を中心とし、全職員の共通理解を図る。</p> <p>研究の内容・方法                  ・ クラスの編成方法、                  ・ 評価                  ・ 学習内容・教材の工夫                  ・ 指導形態と編成の工夫</p>
------------------------	---

### (3) 研究推進体制

本校では「学力向上フロンティア」を、教師の「指導力向上フロンティア」と捉え、今年度は英語科による「学力向上」を目指した取り組みを行っている。教科会で共通理解をし、同一歩調で取り組む内容と平行して、「指導力向上」の観点からボトムアップの発想で、「学力向上フロンティア事業」の内容に関する研究を英語科教師一人一人が計画し行っている。

この研究は、教師一人一人の主体的なアイデアを生かした実践を普通の授業で行い、授業研究や実践例、成果の発表を通して、明らかになった物を共有化し、互いに指導力の向上を目指して、授業改善を進めていこうと考えている。「習熟度別少人数指導」に関する研究は、その研究の一つである。

本校では、3年生全クラス・全時間を基礎クラスと応用クラスに編成、2年生は全クラスを週3時間のうち2時間を基礎クラスと応用クラスに分けている。

コース決定は、定期テスト終了ごとに本人と教師で相談し、変更できるようになっている。但し、応用クラスから基礎クラスへの変更は認められない。

今年は主に3年生を中心に、研究を進めている。

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

従来の一斉授業と比較した時、生徒は多くの点において「習熟の程度に応じた学習」の良い点を実感することができた。アンケートを実施した結果、本校においては多くの生徒がこの学習形態について肯定的に捉えているようである。

英語の習熟度別のクラス分けについては初年度だが、どちらのコースの生徒も主体的に取り組んでおり、アンケートからも「やってよかった」という意見が多くある。これからは、生徒が友人関係や教師によってコースを選ぶのではなく、自分の力を理解し、お互いの力を認め合い高め合えるようなクラス編成になるよう指導していきたいと考えている。

応用コースにおいては、全体的な雰囲気として学習意欲が高いので、授業中の反応なども速い事から、授業者は比較的速いペースで授業活動を展開することができる。その結果として生まれる時間的なゆとりから、更に発展的な活動へつなげることができ、それがまた更なる向上心へとつながるといい環境が生まれてきた。

#### 2. 今後の課題

一斉授業では、中間層に視点を当てた授業進行が、少人数習熟度別にするとその中間層に光があたる時間が減ってしまった。中間層の生徒が応用コースで授業を受けると、学習内容の進行が早くなったり例題が難しくなったりして、ついていくのがやっとなってしまう学習意欲を損なうことになってしまった。逆に基礎コースに入ると、噛み砕いた指導になり理解は出来るが、教師の目が理解不十分の生徒に向きがちになり、気が緩み学習の伸びを欠く生徒が出てしまった。このような点を考えると、2クラスを、基礎・基本コース、標準コース、発展コースの3つに分ける方法もよいのではないかと、今後研究を深めたいと考えている。

2年生を中心に放課後行った豆テストは、運動会練習や委員会の集まりがあったりと、集2回という時間を確保するのは難しかった。よって、11月からは英語の苦手な生徒(20人前後)だけを対象に行った。今後は放課後残さなくても、良い点数につながる教材を考えていきたい。

定期テストや観点別テスト等を生徒に返却するときにも、少人数である利点を生かして時間をかけ、結果について一人ひとりにアドバイスをしながら返却すると、次へのステップにもつながり生徒の学習意欲もさらに湧いてくる。

一斉授業で使用している教室を利用して基礎コースは授業をしているが、生徒が点在したり雰囲気も雑然としてしまい、今後固定した教室の設置が望ましいと考える。

去年から評価が変わったことや、フロンティアスクールとしてのあり方、そして習熟度別指導のねらいについても生徒自身や保護者に理解してもらわなければならない。今年もPTA研修会(6月)に説明会を行った。しかし、一度や二度の説明だけで十分に理解を図れるものではないので、学年集会や学級活動、保護者会等、機会のあることに資料等を作成するなどして説明を継続していきたい。特に、保護者に対しては、学校の会合に出席できない方々もいるので、学期末などで通知表を配布する際には、それらについての説明が書かれた補助

資料を付加させることも一つの方法ではないかと考えられる。  
 また、いつでもこのことについての意見や質問を受け付けられるということを生徒や保護者に伝えておくことも重要なことだと考える。  
 将来的には、指導内容により、他教科の教師と一緒に授業が展開できればよいと思う。  
 今後もフロンティアスクールとして、生徒一人ひとりが確かな学力を身に付けていくことができるよう、教師の指導力向上を目指し改善・発展させていきたい。

#### 学力把握のための学校としての取組

- ・ 2年生全員対象の毎月始めの達成度テスト（過去問）
- ・ 2年生全員対象の週2回（月・木）の豆テスト（5問から10問）  
     放課後や4・5譜の休み時間を利用  
     3年生のボランティア9人が採点。各自、全問正解次第終了。
- ・ 3年生全員対象の英検対策テスト（4月、11月、1月、3月）

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 研究会、説明会等の開催予定については、検討中であり未定。
- ・ ホームページについては、本年度の研究要項を元に現在、作成中である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             3学級以下                       4～6学級  
                               7～9学級                         10～12学級  
                               13～15学級                       16学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                       T・Tによる指導  
                               その他
- 【研究教科】             国語                       社会                       数学                       理科  
                               外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭  
                               保健体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無